

1. 研究背景

自然災害の脅威は今日まで急速に拡大し続けている。また、2009年に発生したイタリア中部地震では、308名の死者が出ただけでなく、歴史都市であるラクイラ中心部にあるサンテ・アニメ教会や県庁の建物を含む多くの建物が崩壊した。

特にイタリアのような歴史都市における復興や建造物の修復には時間を要する。イタリアの復旧では、崩れた建物に対して同じ材料、設計方法によって再現するという「真実性（オーセンティシティ）」を信念としてこれまでの自然災害からの復興に取り組んでいる。



2. 課題点

歴史都市に居住する住民にとっては一般的な震災と比較しても、より長期間の復興プロセスを経て、再建された自宅へ戻る。そのような中で、行政は住民にとって必要な災害に関する情報を提供する必要性がある。

しかし、、、【課題点】

被災直後から、避難所での生活期には、災害情報の需要と供給の不一致が発生しやすい。

→流言の発生、交通渋滞、風評被害、支援物資のミスマッチなどのような問題発生につながると指摘している

3. 本研究の目的

【被災後に災害情報の需要と供給の不一致を減少させる災害情報システムの構築に向けて】

- ・ イタリアの復興プロセスの把握
- ・ 政府の災害対応に対する住民の応答
- ・ 避難所開設から終了までのプロセス以上の点を明らかにすることを目的とする。

4. 調査内容

・イタリア政府 災害防護庁に対するインタビュー調査

災害防護庁本部にてDavid Fabi氏、Valeria Silvestri氏に対して平常時における活動および緊急時の災害対応のロジスティックに関して、2009年および2015年イタリア中部地震を事例にし、インタビュー調査の実施をした

・ANPAS アブルツォ州支部へのインタビュー調査

ANPASとは、イタリア国内で建国当時から存在するボランティア団体であり、現在では平常時の医療系の応急処置から緊急時には避難所（イタリアではテント村などと呼ぶ）の全運営をイタリア政府からの要請を受け実施する団体である。そのアブルツォ支部で2009年イタリア中部地震時の避難所運営の実態に関するインタビュー調査と日本の避難所の実態に関して意見交換を行った。



【ANPASに対するインタビュー調査から】 ・土地に応じた臨機応変な避難所運営と円滑な被災者への対応を実現とする避難所のゾーニング



2009年イタリア中部地震時のゾーニング



2015年イタリア中部地震時のゾーニング

・緊急時の災害対応実現に向けたロジスティックスの事前のパッケージ化

RESPONSABILE DEL CAMPO					
FUNZIONE DI SUPPORTO			REFERENTE NAZIONALE		
SECRETARIA	SECRETARIA	SECRETARIA	SECRETARIA	S.O.N.	S.O.N.
CUOCO	CUOCO	ELETTRICISTA	LOGISTICA	LOGISTICA	LOGISTICA
OP. CUCINA	OP. CUCINA	IDRAULICO	LOGISTICA	LOGISTICA	LOGISTICA
OP. CUCINA	OP. CUCINA	COMUNICATORE	LOGISTICA	LOGISTICA	LOGISTICA
OP. CUCINA	OP. CUCINA	PSICOLOGO	LOGISTICA	LOGISTICA	LOGISTICA
OP. CUCINA	OP. CUCINA	OCF	LOGISTICA	LOGISTICA	LOGISTICA
OP. CUCINA	OP. CUCINA	OCF	LOGISTICA	LOGISTICA	LOGISTICA

本渡航中は質問紙調査は実施を行ったものの質問紙の不備により分析ができなかった。イタリア・ラクイラに在住の方の支援により、2020年4月から7月にかけて配布・回収し、分析を行う。

5. 結論

【災害防護庁に対するインタビュー調査から】 ・トップダウン型合意形成システムによる送球かつ合理的な災害対応の実現

→発災直後から首相を始めとする災害防護庁の合意形成システム確立による災害対応の実現